

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

茨城県 潮来市立牛堀中学校

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用
した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の
経験に基づく「オリ
ンピックの価値」等
を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った
内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：伏見 知何子 先生（スキー／スノーボード）
【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■期 日：2025年6月13日(金)
■ク ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



トリノ2006冬季大会にスノーボード競技のハーフパイプ種目で出場したと自己紹介。運動の時間は体を動かしながらオリンピックバリューを感じてほしい。準備体操後、2人組で足を大きく振り上げて股関節を伸ばす、膝を抱えて腿の前側を伸ばす等のストレッチを実施。その後、体育館の4箇所にポイントを設け、2人でじゃんけんをし、勝ったら次のポイントに進む。負けたらスタート地点に戻り、40秒間に何人が最後のポイントまで進めるかを競う。

○主運動等



主運動は8の字跳びを実施(全3回)。2つの班を合わせて3チームを作る。左右から8の字を描くように跳び、途中で縄に引っかかっても続けて数え、90秒間に跳んだ回数を競う。途中作戦タイムを設け回数を増やす工夫を話し合う。3回目の実施前に各チームに作戦を尋ねると、跳ぶのが上手な人を間に入れ流れを良くする、跳ぶタイミングを教え合う、皆で数を数える、引っ掛かった後にすぐスタートできるように皆で声を掛ける等と答える。



8の字跳びでは、各班共に回数を重ねる毎に記録を更新できたことは素晴らしい。チームの皆で考えたことや工夫したことが結果につながっている。特にお互いの声掛けが沢山できたことは良かった。座学の時間は、オリンピック出場までの経験を話し、オリンピックバリューが皆にとって今後どう活かせるかを考える時間にしたい。運動の時間に皆が考えた作戦や行動が、オリンピックバリューのどれに当てはまるかを考えておいてほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：伏見 知何子 先生（スキー／スノーボード）
【出場オリンピック／トリノ2006冬季大会】

■期 日：2025年6月13日(金)
■ク ラ ス：2年A組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



映像とスライドを見ながら自己紹介。使用しているスノーボードの板を披露。スノーボード競技を始めたきっかけは、ゲレンデで1番格好いいと思われないという気持ちからだった。目の前の小さな目標を1つずつ達成したことで、その先にオリンピック出場という目標ができ、努力をしたことでその夢が叶った。国語の教師を目指していたが、スノーボード競技に本気で取り組むと決めてからは両親を説得し、その気持ちを理解し応援してくれた家族に感謝し、恩返しをするつもりでオリンピックに臨んだ。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。

発表：エクセレンス：「声を出す」「楽しむ心」「少しずつできることを増やす」「前回の記録を超える」「目標を立てる」「挑戦する」等

フレンドシップ：「心を1つにする」「協力する」「思いやり」「声を掛け合い士気を高める」「団結」等

リスペクト：「拍手する」「思ったことを優しく伝える」「失敗を励ます」「相手を気遣う」「1人のために、皆のために」等



グループワークで皆から多くの意見が出てきたように、オリンピックバリューは特別なアスリートだけのものではなく、皆の日常生活の中に存在することを理解してもらえたと思う。勉強や部活動等、これからの皆の学校生活にオリンピックバリューを活かしてほしい。また、自分の夢を人に言うことで有言実行となる。自分に自信を持ち、目標に向かって1歩ずつ進んでほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



■記念品贈呈

・2年A組



■修了証贈呈

